

令和3年度 環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業 キックオフミーティング 発表資料

活動団体の本事業への関わり

今年度より“環境整備“に取り組む	✓
昨年度から引き続き“環境整備“に取り組む	
昨年度までの“環境整備“を経て、今年度より事業化に取り組む	
昨年度までの“環境整備“と“支援チーム派遣(事業化支援)”を受けて引き続き事業化に取り組む	

活動団体名：特定非営利活動法人
循環型循環型社会創造ネットワーク

活動地域：八戸市

活動におけるテーマ・キャッチコピー

未利用熱エネルギーを活用した地域活性化と
再生可能エネルギーを活用した防災の実施

活動団体紹介

- 特定非営利活動法人循環型社会創造ネットワーク（CROSS）が発起人となり行政・事業者・大学・研究機関・金融機関で構成される八戸地域循環共生圏協議会を設立して、未利用熱の活用と災害時医療対策の地域プラットフォームを構築します。

未利用熱の活用については、令和2年まで青森県で実施した未利用熱活用事業から派生しており、熱の利活用にはステークホルダーを増やすことが課題と考えています。災害時の医療対策については、八戸地域は地震の被害が多く、東日本大震災においても甚大な被害がありました。その中で、平時はコストを削減して維持し、災害時は医療提供が可能になる仕組みを検討します。

- 発起人の特定非営利活動法人循環型社会創造ネットワークは約20年前に八戸市商工会議所の若手会員が中心になり、環境・エネルギーを研究・調査・実践する団体として設立されました。



ありたい地域の未来を実現するために何をするか

ありたい地域の未来

脱炭素が進み、災害時でも医療を継続して人命を守り、事業を継続して経済的リスクを軽減させる

課題（地域の課題、ありたい未来を達成するための障害など）

未利用熱に関する議論の場がなかったため、活用を検討する事業者が少なかった。
地震や津波の災害が多いものの事業継続を図る方法の検討がされて来なかった。

資源（活用できる地域資源、必要な資源、地域外の資源など）

工場などの生産現場等の排熱
地下水が多く、温度は低いが温泉も多い。
寒冷地ではあるが降雪量が少なく太陽光発電の適地である。

取組（ありたい未来達成に必要な取組、現在想定している事業のタネ）

工場由来の未利用熱を活用し、低温の温泉水を昇温させホテル、福祉施設、農業施設等で熱を活用するシステムづくり。市内の国立公園をゼロカーボンパークとして、平時も災害時も活用できる移動可能施設をつくる。

成果（取組によって出したい成果）

未利用熱を活用して、域外からの化石燃料を削減。再生可能エネルギーを活用して、災害時でも事業継続を図る事業者を増やす。

ありたい地域の未来を実現イメージ

ありたい地域の未来



目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制

行政：青森県エネルギー開発振興課
八戸市環境政策課（オブザーバー）
青森県三八地域県民局（調整中・オブザーバー）

事業者：八戸製錬株式会社八戸製錬所
東京鐵鋼株式会社八戸工場
東北医療福祉事業協同組合

大学：八戸工業大学
国立大学法人弘前大学

研究機関：地方独立行政法人青森県産業技術センター

金融：青い森信用金庫
株式会社青森銀行

団体：特定非営利活動法人循環型社会創造ネットワーク

環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ

- ・ 未利用熱を中心とした地域エネルギーの供給構想をつくるために、熱利用の在り方を検討し未利用熱のマッチング、適切な搬送形態を創出する
- ・ 地域のエネルギー・防災に関する情報発信
- ・ 地域貢献につながる未利用エネルギーの活用検討
- ・ 地域循環共生圏をつくる上での中核人材育成を行う

年間スケジュール（参考資料）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定			◆キックオフミーティング ←→協定締結（活動予算執行開始）				現地意見交換会		◆中間報告会 ◆中間報告書提出期限			◆成果報告会 ◆活動団体成果報告書提出
協議会				◆組織会・協議会(1) ◇講演会			◆協議会(2) ◆環境省との意見交換会 ◆オンラインフォーラム		◆協議会(3)			◇発表会
分科会(1) 未利用熱					◆分科会(1)			◆分科会(2)		◆分科会(3)		
分科会(2) 防災					◆分科会(1)			◆分科会(2)			◆分科会(3)	
事務局業務			←協議会準備→	←協議会準備→			←協議会準備→					
				←分科会準備→	←分科会準備→			←分科会準備→				
					←ヒアリング→						←成果物→	